

会 議 記 録			
会議の名称	<b>予算特別委員会</b>		会議場所 全員協議会室 担当職員 鈴木
日 時	平成28年3月24日(木曜日)	開 議	午前 10 時 00 分 閉 議 午後 2 時 43 分
出席委員	齊藤 三上 小川 奥野 福井 菱田 馬場 藤本 木曾 湊 石野 <西口議長>		
執行機関出席者	桂川市長、湯浅副市長、勝見副市長、玉井病院事業管理者職務代理者、竹岡教育長、桂政策推進室長、岸企画管理部長、俣野生涯学習部長、門総務部長、木村総務部税・財政担当部長、中川環境市民部長、西田環境市民部市民生活・保険医療担当部長、小川健康福祉部長、玉記健康福祉部保健・長寿担当部長、山田産業観光部長、内田産業観光部農政担当部長、古林まちづくり推進部長、橋本まちづくり推進部土木担当部長、中川会計管理室長、大西上下水道部長、石田上下水道部事業担当部長、佐々木市立病院管理部長、木曾教育部長、石田総務課長		
事務局出席者	藤村事務局長、山内次長、鈴木議事調査係長、三宅主任、池永主任		
傍聴	市民0名	報道関係者0名	議員7名 (酒井、奥村、並河、竹田、平本、小島、明田)

## 会 議 の 概 要

10:00

### 1 開議

〔齊藤委員長 開議〕  
〔事務局長 日程説明〕

〔市長等入室〕

### 2 第1号議案審査

【市長質疑】

番号	事業名	論点
1	バス交通関連経費	①交通空白地等地域生活交通事業補助金について、今後において予算も含めて検討し、市の支援のあり方や地域の役割等を明確にして、条例化するべきと考えるがどうか。 ②コミュニティバス、ふるさとバスについて、地域の要望を捉えて、総合的に検証、見直していくことが必要と考えるがどうか。
2	企画推進経費 財団活動経費 火葬場等経費 最終処分場維持管理経費	ガレリアかめおかの大規模修繕や埋立処分場、新火葬場等については方向性をしっかりと示す時期にきていると考える。公共施設の管理については「公共施設等総合管理計画」において、人口減少等の社会状況の変化を踏まえ、市民、専門家の意見も十分に聞く中で、採算面のみで縮減するのではなく、市民福祉の観点から策定されるべきである。

3	(業務委託経費について)	全般的に、業務委託経費が多額となっているが、専門的な業務等を、より精査して発注すべきではないか。
4	会館運営経費 文化センター運営経費	文化サークル等の活動保障の点から、全市的に利活用可能な施設の把握と住民へ周知することについての考えは。また、文化センターについて、3館体制への早期移行の考えは。
5	生涯学習まちづくり経費	生涯学習賞のあり方を含め、ハード・ソフト両面で生涯学習を推進する方向性についてどのように考えているか。
6	公立保育所運営経費	①全国的に見ても保育士の年収が低い。待遇改善について、国にもしっかり要望していくべきだと考えるがどうか。
		②入所待ちの現状を改善するには、保育士の待遇面だけでなく、仕事の内容、保育所の立地や規模なども考慮して対策を講じていくべきと考えるがどうか。
7	鳥獣対策事業経費	対策強化として、シカ・イノシシ捕獲後の処分に係る行政の支援(施策)が必要では。
8	6次産業化促進事業経費 観光推進経費	本市のブランド力を高め、食・農業(6次産業化を含む)と観光を組み合わせた施策の強化が必要では。
9	道路維持経費	効果的な道路整備への予算確保の考え方、また、道路橋梁等の維持管理の方向性と公共施設等総合管理計画との関係性は。
10	教育費の予算編成について	教育費については、子どもたちを育むための予算であり、一律に減額するのではなく、事業を精査し必要な部分は手厚く配分する編成を行う必要があると考える。この考えのもと、トイレ改修の早期実施や中学校給食の方向性、また、就学奨励経費や要保護・準要保護経費を減額した理由について、市長の考えは。
11	京都スタジアム(仮称)について	京都スタジアム(仮称)について、環境保全対策等を含め市民への説明責任を十分に果たすことが大切であると考えるがどうか。
12	補助金について	予算編成における補助金一律2割カットについて
		①2割の根拠は。
		②教育関係の補助金は一律カットに適さないと考えるがどうか。
		③執行上不都合が生じた場合に、補正予算計上も含めた柔軟な対応等の考えは。

〔市長等 入室〕

市長答弁

<市長>

1 -

東別院町自治会による自主交通の取り組みは、市内における交通空白地等の解消へモデルケースとなるものと期待している。この取り組みに対する支援制度については、まずは要綱により適正な管理に基づく補助制度として開始する。制度の条例化については、今後の状況や他の自治体の制度等を研究していく。

1 -

亀岡市のバス交通のあり方について、市民アンケート、利用者アンケート、自治会、老人クラブ、障害者協会等へのヒアリングを実施し、市域全域を対象とした亀岡市地域公共交通計画を平成26年3月に策定した。計画期間は平成26年度からの5カ年とし、計画の進行と管理は亀岡市地域公共交通会議において行い、本年2月から東部地区のコミュニティバスの試験運用を開始した。また、南部地区の交通空白地の解消については、デマンド方式の導入を目指し、地元自治会と協議を進めるとともに、支援制度創設を行うところである。今後も当該計画に基づき、市内の公共交通ネットワーク向上を目指し総合的な改善に取り組む。自治会からデマンド交通を実施したい要望等があれば、適宜検討していきたい。

2

ガレリアかめおかは開館後約18年が経過しようとする中で、施設修繕が必要となっている。公共施設として、利用者への安全確保はもちろん、施設の長寿命化の観点からも大規模修繕を視野に入れて対応すべきと考えており、20年を目途に調査したい。長寿命化を図らなければならないと考えている。特に、音響や照明については、利用者へ直接影響することから、早期の改修が必要と認識している。修繕経費としては、計画等の具体的調査が必要だが、約4億円程度が必要と見込んでいる。

埋立処分場については、桜塚クリーンセンターの焼却灰を大阪湾フェニックスで、その他の埋立ごみはエコトピア亀岡で処分している。エコトピア亀岡については、市民のごみの減量・資源化の取り組みにより延命化が図られており、今後、施設の使用期限の延長については地元と協議により進める。

新火葬場については、都市計画決定している余部町丸山での建設を前提に検討を進めている。平成37年度には現火葬場の一日の処理能力を超えることが予想され、広く市民の皆さんのご意見をお聞きし、整備に向けた構想の策定を検討したい。このため、新火葬場整備検討審議会をできれば平成28年度中に立ち上げて検討していきたい。現火葬場の利用状況等を説明し、規模や事業費、経済性及び建設時期を含めた全体的な構想を審議いただきたいと考えている。

公共施設の管理については、人口減少社会の到来や少子高齢化の進展により、今後、行政サービスの維持・向上を目指すには、将来の財政負担を軽減する必要がある、そのためには複合的施設を有効に活用し、施設保有量の最適化を図りつつ、機能の維持・向上が求められている。このような中、「亀岡市公共施設等総合管理計画」の策定作業を進めている。今後はパブリックコメントを実施し市民意見を反映させるとともに、計画に示す施設類型ごとの基本的な方針を踏まえ、各施設の所管課で施設のあり方を検討したうえで、「(仮)公共施設マネジメント推進委員会」を設置し、市民意見を反映させる仕組みを構築していく。

3

計画策定に係る業務委託については、策定すべき計画の内容・事務量及び策定期限などと担当課の業務量、人員などを含めて精査しつつ、効率的、効果的な手法として活用している。コンサルタント委託のメリットとしては、事務の高度化、効率化及び人的資産の有効活用などが考えられる。後期基本計画の策定については、職員が他の業務を兼務しながら短期に効率的に策定作業を進める必要があったことから活用したものである。後期基本計画の内容については、審議会等を多数開催して審議いただき、会議での意見を反映させてきた。また、パブリックコメントや議会からの意見も反映し、市民、議会、行政の思いが込められた後期基本計画として提案している。この10年間で職員を115名削減してきた。職員人件費は平均で700万円前後であり、約8億円の人件費を抑制してきた。このため適宜コンサルを活用して人員不足を補完することが必要だと考えている。

4（会館運営経費）

市民の活動場所としては、ガレリアかめおかをはじめとする社会教育施設等を活用いただいております。また、各文化センターや交流会館等既存施設の利用をお願いしている。今後、利活用可能な公共施設については、市のホームページ等で周知していく。

4（文化センター運営経費）

平成24年3月議会において、5文化センターと6児童館を人権福祉センター、東部文化センター、保津文化センターの3館を中核館として人員と事業を集約すると答弁した。現在、各文化センターで事業等を精査する中、人員の削減をはじめ、施設の一部管理委託について着実に取り組んでいる。地元で理解を得たうえで、しっかりとした3館体制となるようにしたい。

5

本市は全国に先駆けて生涯学習都市を宣言し、生涯学習のまちづくりを推進してきた。社会の変化等は著しいが、生涯学習の基本的な考え方は普遍的なものとし「新亀岡市生涯学習推進基本計画」に基づき展開している。市内の受賞者は、奨励賞と共生賞の29件中17件で、全体では40%を占めている。生涯学習大賞についてはPR効果が大きいと認識している。引き続き生涯学習都市宣言のまちとして、その役割を果たしながら取り組んでいきたい。

6 -

保育士の給与は、子どもの命を預かる重責を担う業務状況及び昨今の情勢を考慮した適正な給与水準であることが重要であり、国策として社会全体で保育士の待遇を改善する必要があると考えている。本市においても国への要望について、京都府や京都府市長会を通じあらゆる機会を捉えて要望する。平成28年度は経験者の臨時職員については給与の上乗せを行う予定である。

6 -

処遇改善として、給与面を改善する一方で、保育士の担う業務負担についても改善する必要があると考えており、保育所における事務の省力化から取り組むこととしたい。また、保育施設等の環境面については、今後も民間保育園の施設充実を支援するとともに、公立保育所の再編整備の必要性も認識しており、具体的計画をまとめるため検討している。施設面については民間と公立で違いはある。今後、保育士が保育業務に専念できるように改善していきたい。

7

大型獣捕獲駆除活動については、亀岡猟友会に要請し積極的な駆除等の活動をいただいている。捕獲された大型獣の処分については、猟友会の駆除班により対応いただいている。福知山市は焼却処分施設を建設されたが大変な経費がかかっている状況である。このことから民間の焼却施設を活用することを考えていきたい。焼却処分するとしても大型獣を処理する必要があり課題となる。

8

亀岡牛は府外からも高い評価を得ている。地域ブランドとしての亀岡牛の魅力を高め、本市を訪れたいくなるような素材の良さを生かしたメニューを考案する等、観光とのコラボレーションを企画していきたいと考える。ご当地グルメとしてもPRしていきたい。また、昨年12月にはガレリアかめおかで「亀岡京野菜クラブツーリズムマルシェ」を旅行代理店と連携して開催した。本市の農産物や特産品の購入等を目的としたツアー企画で亀岡ブランド特産品を広く発信することができたと考える。今後も本市の魅力を掘り起こす商品と観光スポットをつなぐ中で、着地型ツアー造成を展開し、観光誘客に努めたい。予算としては各所管にまたがっており、取り組みを減退させるものではないと認識している。

9

道路は主要なインフラであり、本市の重点施策であると考えている。単費で実施できるものではないので、国・府と連携して生活幹線道路や通学路等の重点整備路線を選定しながら効果的に事業推進している。平成28年度は、市道篠バス停線の通学路整備、宇津根橋架け替え事業との連携、市道保津宇津根並河線及び市道池尻宇津根線、都市計画道路並河亀岡停車場線等の整備を順次進めていく。平成29年度以降には（仮称）犬飼バイパス整備も計画している。平成27年度における道路・街路関係の国庫補助金要望額に対する交付額は近年厳しい状況であるが、国・府に対して強く要望していく。また、道路、橋梁、都市公園等の維持管理の方向性については、個別の長寿命化計画に基づき、計画的に取り組む。公共施設等総合管理計画では、インフラ施設も対象としているが、効果的な道路ネットワーク形成を図るとともに、長寿命化に取り組むこととしており、適切で安定的な行政サービスの提供に努めたい。

10

教育予算は未来を担う子どもたちへの先行投資であり、教育環境の充実をはじめ、生きる力や個性を伸ばす人材の育成などの取組により、一人ひとりに必要となる基礎的な資質が培えるよう進めていかなければならないと考えている。財政状況が非常に厳しい中、既存事業の精査、見直しも含めて検討することにより、一定の教育環境整備とあわせて教育内容の充実に向けての施策推進が可能な予算が編成できたと考えている。

子ども議会で要望のあったトイレ改修は、全小中学校の実態調査を行う中で、平成27年度補正予算での対応も含めて、今年度実施可能な部分は改修した。しかし、すべてを単年度で整備することは難しく、次年度以降に計画的に実施するものや大規模改修の時期を踏まえ効果的な実施を考えている。特に、大井小学校については、トイレの臭気対策をしてきたところであるが、大規模改修

しなければ対応できない部分もあるので、今後検討して聞きたい。  
中学校給食については、あらかじめ方向性を定めて検討するのではなく、これから立ち上げる組織の中で、児童・生徒はもとより保護者、学校関係者、市民などから幅広く意見をいただき、実現性も考慮して方向性を見出すこととしている。

就学奨励経費については、所得基準額や支給単価などの見直しを行ったことから減額としている。要保護・準要保護経費については、近年の景気動向や雇用情勢なども踏まえ、段階的に減額としてきたが、不足が生じた場合には補正で措置したいと考える。

1 1

アユモドキの積極的な保全対策を進めるため、現在、環境保全専門家会議の知見を得る中で、丁寧に検討を進めている。アユモドキをはじめとした環境への影響を評価するためには、様々な視点からの分析が必要であり、一定の時間を要する。会議での議論はホームページで情報提供している。今後、事業の進捗状況等を考慮し、市民には地域こん談会をはじめ広く情報提供していく。また、議会にも情報を適宜提供する。

1 2 -

実質単年度収支の赤字が続く大変厳しい財政状況の中、限られた財源を最大限に効果的・効率的に活用し、基金に依存しない持続可能な市政運営を図るため、補助金を基本的に2割カットとし、さらに精査することと他事業の経費の再度の見直しを促すために実施した。現時点でどうしても削減できない補助金もあり、その場合は他の経費で減額するなどして予算編成した。財政調整基金を使わずに予算編成するように各部署に指示をしていかなければならない。しかし、これまでからの継続事業もあり、現段階では本格的な削減はできていない。

1 2 -

削減することがふさわしくない補助金については、他の経費を削減するなど柔軟に対応した。このため、教育関係の一部を含め、補助金をすべて一律2割カットしたものではない。

1 2 -

補助金の算定については、基礎となる員数等の変化により不足が生じた場合は、例年と同様に補正予算も含めた対応を検討する。

1 0 : 4 3

## 質疑

< 齊藤委員長 >

質疑は一問一答方式で、1項目につき1委員3回までとする。

1

< 馬場委員 >

バス交通関連経費について、東別院町では東別院町ふれあいセンターを起点にデマンド交通を検討されてきた。しかし、これとは全く別のものとして、自治会へ全面委託する予算となっているが、この方向になったのはいつか。

< 政策推進室長 >

東別院町と蕨田野町鹿谷、篠町に空白地域がある。東別院町については、平成25年度からデマンド方式等について検討してきた。現在、府道袖原向日線を走るバスとバスが走っているが、例えば公民館からふるさとバスのバス停まで運行する方法等を検討してきた。平成27年度に入り自治会と協議する中で、地元が運行する方式がよいという意見になったものである。

<馬場委員>

東別院町では4年前から交通機関と検討されてきた。万が一の事故が起こったときに誰が責任を負うことになるのか。

<政策推進室長>

亀岡市は出前タウンミーティングで地元へ説明し意見交換も行ってきた。その中で一定の結論がでてきた。事故が起こったときの対応や運転は誰がするのかといったことは、地元の運営協議会の中で危機管理を最重点にして考えていただいている。他市町村の事例も参考として対応したい。

<馬場委員>

公共施設等総合管理計画では類型ごとに管理することとされているが、文化振興や生涯学習等、設置目的に応じて分類するという意味か。

<企画管理部長>

目的に沿った類型ごとという意味である。

<馬場委員>

類型を守るという住民の意思があればそれに応えていくのか。

<企画管理部長>

その通りである。

<木曾委員>

バス交通関連経費について、デマンド交通を進められるということは高く評価している。今後の運営を考えるのであれば、補助額を含めて条例化することが必要だと考える。

<市長>

初めての取り組みであり、モデルケースとしての課題があれば対応を考える。まずは状況をみていきたい。行政としても地域にとって有用なものであれば、応援していきたい。

<木曾委員>

自治会との関係も考えると条例化は必要と考えている。

2

<藤本委員>

桜塚クリーンセンターの施設としての寿命は。

<環境市民部長>

平成24年から平成27年にかけて、国の補助等を受けて長寿命化の基幹工事を25億円かけて実施した。その結果15年程度の長寿命化をしたが、それ以上に使用できるように大事にしたいと考えている。

<藤本委員>

エコトピア亀岡は今後どれだけ使用できるのか。

<環境市民部長>

平成26年度からの容器包装プラスチックの減量化により、これまでよりさらに延命化が可能になってきた。大阪湾フェニックスの事業進捗状況も踏ま

- え、将来的な対応については慎重に考えていきたい。
- < 藤本委員 >  
平成 28 年度で新火葬場整備事業を予算化するのか。
- < 環境市民部市民生活・保険医療担当部長 >  
平成 28 年度は審議会を 5 回開催する等の予算を計上している。
- < 菱田委員 >  
公共施設等総合管理計画に基づき管理していくこととなるが、人件費等も含めてコストをみていくのか。
- < 企画管理部長 >  
平成 28 年の夏から秋にかけて公共施設等総合管理計画を策定する。その中に全体として 11% の経費削減を盛り込んでおり、ランニングコストや人件費が含まれるものである。
- < 菱田委員 >  
今後も市民が利用する中で施設を残していかなければならない。一方で、例えば亀岡会館の解体や建設にどれだけの市民負担がかかるかということも示すべきである。また、市民が施設を使いたいという要望、文化意識の高まり、職員のコスト意識を含めて検討していく必要があると考えるがどうか。
- < 企画管理部長 >  
各所管があり、施設の類型ごとに大別していく。コスト意識については、これまでは古くなれば建て直すという考えであったが、目的を持って減らしていくという意識を職員は持っていると思う。
- < 菱田委員 >  
公共施設は横断的に利用できることもあり十分に意識していただきたい。
- < 木曾委員 >  
火葬場は平成 37 年度に施設の限界を迎える見込みであるが、過去の経過も含めて十分協議するべきである。予算計上してもうまくいかないこともある。亀岡地区自治振興協議会の役割等を踏まえてどう対応するのか。
- < 環境市民部市民生活・保険医療担当部長 >  
都市計画決定されて 17 年が経過した。その間、社会・経済情勢が変化してきた。火葬場について市民の考えも変化してきた。火葬場の規模、形態、整備手法、コスト等幅広く市民の意見を聞きながら進めたいと考える。火葬場に関する地元要望については、亀岡地区と十分に協議して考えていきたい。
- < 市長 >  
これまでの経過は無視できない。斎場も含めて建設するという話もあったが、市内に斎場がたくさん建設される等時代も多少変わってきた。行政コストの負担軽減も考えていかなければならない。まずは、委員を選定する中で議論する場を作っていきたいと考える。
- < 木曾委員 >  
地元の小石地区とこれまでの経過等を踏まえ十分に検討していただきたい。
- 3
- < 福井委員 >  
総合計画は本市の指標となるものであり、本来は自分たちで作成すべきものとする。委託料に 1000 万円の予算を使うのであれば、一人職員を雇用して対応できるのではないかと考える。



< 市長 >

私の「かめおか・未来・チャレンジビジョン」との整合については、職員が作業してくれた。総合計画の策定では多くの会議を開催してきた。計画の骨子は職員が考えたものであり、業者に丸投げしたものではない。今後、議論して議会や市民の声も取り入れるよう取り組みたい。

4

< 福井委員 >

京都学園大学の教室に空きがあると聞いている。市民の活動場所が不足しているという観点からだけでなく、大学とは連携・協力に関する包括協定を結んでおり、空き教室を活用できるよう協議していただくよう要望する。

5

< 福井委員 >

市内枠の生涯学習賞を創設するべきである。活動の励みになると考える。

< 生涯学習部長 >

現状では市内枠はないが、奨励賞と共生賞では亀岡市内の団体等がたくさん受賞されている。平成28年度生涯学習賞の選考委員の協議の中で伝えていきたい。

< 福井委員 >

賞金のことを言っているのではない。由緒のある賞であり、市内でがんばっている方を表彰するという姿勢を示していただきたい。

6

< 馬場委員 >

保育環境に関して市長の基本的な考えは。

< 市長 >

子育てはまちの将来を左右する大きな要素であり、待機児童をなくすことを前提として考え、取り組まなければならない。現状は保育士が不足している。賃金を南丹市と比較した場合、本市の方が低いため新年度からは保育経験者の環境を整えたい。保育士は現場でがんばってくれている。保育士の資格がない人も増やし、保育以外の仕事をしてもらい、保育士をサポートできる環境を整えたい。このことについては、国への要望も欠かせないことと考える。また、保育施設も改善していかなければならない。財政状況は厳しいが、重点的に対応しなければならないと考えている。

7

< 奥野委員 >

有害鳥獣の焼却処理施設について市長の答弁では民間を活用するとのことであったが、具体的にどのように活用したいと考えているのか。

< 市長 >

亀岡市内の焼却施設を持つ民間事業者に問い合わせた結果、焼却するために解体した鳥獣であれば処分できるとのことであった。新聞で鳥獣を解体できる専用のトラックを開発中と報道されていたので活用できるかを考えてみたい。猟友会とも意見交換して考えていきたい。

< 奥野委員 >

福知山市の処理施設に持ち込む手立てが必要ではないか。持ち込みは誰が行うのか。持ち込むにも労力がかかる。

< 市長 >

福知山市の処理施設は平成 27 年 9 月から稼働しているが、建設には約 3 億 8 4 0 0 万円かかった。また、運営費もかかる。そこを利用するにも亀岡市内の民間事業者と同じように解体処分をして搬入しなければならない。このため、福知山市がモデルケースになるとは考えていない。民間活用を含め、猟友会にとっても条件的によいものを考えていきたい。

< 奥野委員 >

民間を活用できる具体的な方法を考えていただきたい。

< 市長 >

経費がどれだけかかるのか等も含めて考えていきたい。

< 小川委員 >

2 市 1 町で処理施設の建設を要望することについての方向性はどうか。

< 産業観光部農政担当部長 >

処理施設については、亀岡市、南丹市、京丹波町の 2 市 1 町で京都府に要望してきた。中丹地域では補助金を活用されるとともに、合併特例債を充てられており、各自治体の一般財源支出はかなり圧縮された。これを口丹波の 2 市 1 町で活用することはできない。また、民間活用については今後検討すべきだと考える。

8

( 質疑なし )

9

< 馬場委員 >

市道は毎年延びているが一般財源は減っている。長期的な管理計画はどうなっているのか。

< まちづくり推進部長 >

危険箇所も含め道路パトロールを行い、職員の緊急対応等により安全安心の道路環境の維持に努めている。LED の公衆街路灯助成にも取り組んでいる。地域の道路を取り巻く課題について臨機応変に対応しておりご理解いただきたい。

< 馬場委員 >

府道枚方亀岡線と国道 9 号との接続地点の歩道について、市としては府とどのように連携して安全管理を行っているのか。

< まちづくり推進部長 >

地域と調整して歩道の形態を考えてきた。安全面で懸念される部分はあるかもしれないが、道路管理者である京都府が現状で最善の対応をしていると考える。

< 馬場委員 >

安全確保について京都府と十分に協議していただきたい。

< 福井委員 >

全体的に一般会計を縮小する中で道路維持経費も減ると交付金が減るのではないか。

< まちづくり推進部長 >

毎年要望額を出しているが、その通りにはいかない。上乘せすればその分交付金が入るというものではない。現在は社会資本整備総合交付金として配分

されている。道路網整備は重要であると考えており、できるだけ要望額に近づける努力をしていきたい。

10

< 湊委員 >

子どもたちに定住してもらうことが亀岡市の活性化と人口減の歯止めとなるものとする。教育費の補助金等の考え方はどうか。

< 市長 >

教育費については未来への投資、人口減・少子化を軽減するために大切であると認識している。予算が十分にあれば環境整備を積極的に実施していきたい。私のかめおか・未来・チャレンジビジョンでは「子育て・教育で憧れのまち」を目指すとしており、また、後期基本計画にも位置づけている。平成28年度予算でも財政調整基金を約3億5000万円取り崩しているため、多少は教育費にも影響している。ふるさと納税等により財源確保しながら教育に予算配分をしていきたいと考える。

< 湊委員 >

耐震化、教室・グラウンド確保、トイレ改修等子どもの環境整備は最低限の条件である。指摘要望としてあげていきたいと考えている。どのように考えるか。

< 市長 >

大井小学校はトイレ改修ができていないところである。大規模改修については少し時間をいただき、いつできるかを考えて、財源確保をしながら取り組みたい。

< 湊委員 >

大規模改修は近い将来に実施するとのことであった。前向きに取り組んでいただきたい。

< 小川委員 >

私立幼稚園就園奨励費補助金が減額となった理由は。

< 教育部長 >

本市では国の限度額を補助してきた。私立幼稚園就園奨励費補助金は私立幼稚園と公立幼稚園の保育料の均衡を図るものである。市立幼稚園が新たに完成した際に保育料も見直した。私立が優遇されバランスが崩れることが懸念されるので見直した。

< 小川委員 >

平成28年度の入園予定者のこともあり質問した。

< 市長 >

保護者の所得に応じて段階的に補助する額が変わってくる制度である。所得の伸びもあり国の基準額変更に伴い見直した。負担の軽減も考えているが、見直しても無料の人もある。負担が増える人もいる。基準の中で精査しており、保護者の不満はあまりないと考えている。保育料を払っていない人へも対応していかなければならない。

< 福井委員 >

これまでは亀岡市のトップの施策であったと思っている。国基準に合わせる趣旨は理解しているが、一番問題となるのは予算案の議決後である。可決された場合、保育料について入園予定者にどのように説明していくのか。昨年

も私立幼稚園から申し出があり、実施できなかった経過もある。

< 教育部長 >

昨年度に実施予定であったが、私立幼稚園の団体から申し出があり変更せずに執行した。

< 齊藤委員長 >

今年度の周知はどうか。

< 教育部長 >

今年度の周知はまだである。

< 福井委員 >

何度も同じことの繰り返しになるのではないのか。

< 教育部長 >

予算があつての補助金であり先行して説明はできない。

< 福井委員 >

理解を得られるように努力してもらうしかないということか。

< 齊藤委員長 >

幼稚園側は認識をしているかどうかである。

< 教育長 >

昨年に説明したものの変更を見送った。その際に、厳しい状況にあることを説明した。予算案を可決いただければしっかりと説明していく。

< 馬場委員 >

中学校給食の検討の業務委託予算がない中でどのように検討するのか。どこに検討する予算はあるのか。

< 教育部長 >

元々はコンサルに委託する予定としていたが財政状況が厳しいため職員が業務を行う。予算は計上していない。

< 馬場委員 >

給食検討委員会設置の条例を検討するのか。

< 市長 >

要綱を作成し委員を募る。平成 28 年度に検討していく。

< 馬場委員 >

実施するという事で検討いただきたい。

11

< 福井委員 >

議会報告会は議会として実施するものであり、議会にはスタジアム建設に賛成の議員、反対の議員がいるので説明は難しいと考えている。議会報告会に執行部が出て説明することも検討できれば別であるが、現状では市民への説明は難しいことを理解いただきたい。

< 木曾委員 >

専門家会議の報告は新聞報道等を通して議会も聞いている。市民に対して「スタジアム建設は大丈夫だ」ということしか言えない。情報をまずは議会に報告していただき、市民にとっても不安がないようにしていただきたい。

< 市長 >

申し訳なく思っている。市としても新聞を通して知ることが多くある。亀岡市としても市民に不安を与えないようにしていかなければならない。京都府

にもなるべく情報を早く出すように要望していく。

<木曾委員>

北陸新幹線のことも含め、亀岡市への情報提供は遅いと思う。京都府等と連携をとって情報発信についてしっかりと対応いただくよう要望する。

12

<三上副委員長>

市民の幸福について市長はどう捉えているのか。市民が生涯学習することが大切である。金額の大小ではなく、市民の活動を励ます賞であるべきである。市民の幸せについて市長が考えていることについてどの程度反映されているのか。

<市長>

予算に対して15%程度しか自分の思いは入れられなかった。平成28年度は序章の年であり、今後精査して必要なことを実施していきたい。市民の幸せにつながるのは予算だけでなく、市職員と市民との対話や取り組み内容により幸せを実感できるようになると考えている。市役所による市民へのおもてなしや手助け、励ましが大切である。予算があればそれに越したことはないが、全体を見る中で総合的に考えていかなければならない。生涯学習については、市民活動を高く評価していくための事業であるべきだと考えている。世界や全国で活躍される方を招いて実施するコレージュ・ド・カメオカは、市民のモチベーションを上げる生涯学習の働きかけのひとつであり、賞金の100万円が惜しいとは考えていない。生涯学習についてどう効果があるかを考えて取り組みたい。

<三上副委員長>

予算は市民に説明できる透明性が必要である。次に科学的に説明できる根拠も必要である。例えば、有害鳥獣被害がある場合とない場合でどれだけ経済的な効果が変わるか等の科学性においての検証が必要である。また、実際に市民が幸せであるか、満足であるかという実効性も検証しなければならない。

<市長>

予算を与えるだけがすべてではないと考えている。補助金については市民を応援する費用であり、多ければよいというものでもない。行政としては状況を把握しながら補助制度をつくってきた。しっかりと評価して費用対効果等があるかをみていかなければならない。補助金を2割削減するのは苦渋の選択であった。今後も第4次亀岡市総合計画後期基本計画に基づいて予算を編成するのが行政の仕事であると考えている。

<三上副委員長>

人件費を削減してきたことは反省するべき点であると考えている。これ以上人員を減らさず、正規職員を増やしていく考えは。また、保育所等で専門性を持った職員を増やす考えはどうか。

<市長>

市職員の能力をどう発揮させるかが重要である。現場を一番知っているのは職員だと考えており、中学校給食については自分達にできることをやっていくこととしている。職員の能力も含めて今あるものによって進めていきたい。

<齊藤委員長>

財政状況が厳しい中、削減することについて大変努力されたと考える。地域

の要望も多々あるが、地域の方に辛抱していただくことを説明するのも議員の仕事と考える。

〔市長等退室〕

12:20

〔休憩〕

14:00

### 委員間討議

< 齊藤委員長 >

午前の市長質疑も含め委員間討議では論点を最終的に明確にしたい。

< 馬場委員 >

補助金の多くが2割カットされ、合計で2億円余りが削減された。これが避けられないものなのかは吟味する必要がある。スタジアム建設については、当初100億円程度でできるとされていたものが150億円かかることとなった。議会としてしっかりチェックする必要がある。

< 木曾委員 >

大変厳しい財政状況の中、予算編成で苦労されたと考える。教育関係の予算は減らさないでほしいという思いもある。

< 福井委員 >

予算編成についてよくがんばっていただいている。市長が代わったところなので、予算の選択と集中はまだ不十分なのかもしれないが、平成28年度予算としては、まずはこれでよいと考える。今後、事業精査をして予算査定すべきだと考える。

< 木曾委員 >

ここでの意見は指摘要望とするのか。委員間討議の目的は。

< 齊藤委員長 >

委員間で意見を出し合って最終的に論点を絞っていききたい。

< 藤本委員 >

補助金については一律カットされている項目もあれば増やしている項目もある。市長は執行上不都合が生じた場合は補正予算に計上することを考えていると答弁された。初めての予算をよく編成されたと考える。

< 木曾委員 >

補助金を減らしてよかったとは考えていない。財政状況を考えるとやむを得ないものである。

< 齊藤委員長 >

補助金の減額がよいと言っている訳ではないと理解する。

< 馬場委員 >

自主財源をどれだけ確保できるかが問題となる。市税収入は前年よりも伸びており、さらに自主財源を増やすことが大切である。大型事業の実施は必ずしも地元で税収をもたらすものではない。亀岡市の中でお金が回るようにしなければならない。また、私立保育所は公立保育所よりもさらに給与が低いと聞いており、しっかり認識することが必要だと考える。

< 木曾委員 >

自主財源の確保は難しいのではないかと。亀岡市には企業が少ないので、個人の所得が増えない限り税収は増えない。企業誘致をしながら財源確保を考えなければならない。扶助費等の歳出を抑制しなければならない。これらは財政健全化の観点から重要であると考えます。また、保育について、自主財源がない中で地方自治体が保育士の給与等を手厚くするのは厳しい。知恵を絞り、マンパワーにより手立てしていくしかない。

< 菱田委員 >

民間の保育所、幼稚園は経営で成り立つものであり、給与等に関しては経営者の裁量にかかっている。民間保育所の方が人件費が安くなってしまうのは経営のあり方によるのではないかと。

< 福井委員 >

市長はいますぐに歳入を増やすふるさと納税に特化して取り組もうとされている。これとは別に税収増の取り組みについては、すぐに解決できる問題ではないと考える。

< 藤本委員 >

幼稚園は公立では定員割れしている。施設的环境が整っていないのでどうしても民間に流れてしまう。行政において公立と私立の格差を是正する必要があると考える。

< 事務局長 >

委員間討議を行っていただいたのは、討論で賛否を示していただくまでに、委員会の総意としてこの点を明確にしたいという議論をいただくためである。

14 : 20

## 【討論・採決】

### 討論

< 馬場委員 >

平成28年度一般会計予算に反対する。桂川新市長就任後、初めての当初予算であり注目していたが、概ね前市政を踏襲している。削るべきでない予算まで削っている。財政出動がとりわけ多いのは京都亀岡保津川公園関連事業経費である。特定のプロサッカーチームを行政が応援するために公費を使っていることはありえないこと。大阪の吹田市では民間の力でスタジアムを建設したが、京都では税金を投入している。また、京都府の杭打ち工法による建設や建蔽率の問題にも疑問がある。本年度は公園緑地整備事業費に2億円を超える予算が投入されている。このことをしっかりと見直し、市民生活に直接関わる予算の充実が必要と考える。その他、国の自衛官募集事務等への支出を改めて、子ども医療費助成充実等の施策を進めていくべき。修正案を提案する予定である。

< 石野委員 >

平成28年度一般会計予算に賛成する。第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画を着実に進めるための予算である。栗山前市長が示された予算編成方針を基本としながらも、「市民力で未来を拓く」をスローガンに「選ばれるまち」「住み続けたいまち」の実現を目指す予算であり、厳しい中しっかりと具現化していただきたい。

< 藤本委員 >

平成28年度一般会計予算に賛成する。人口減少や市税が100億円を割り込む等厳しい状況の中、扶助費は年々増大し、単年度収支は赤字となっている。補助金の削減を行ったが、一律カットではなく農業支援、公衆街路灯助成等には配慮されている。まずはこの予算を適正に執行し、不都合があれば補正予算で対応いただきたい。

< 木曾委員 >

第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画に取り組む予算である。財政状況厳しい中、きめ細かい予算編成となっている。今後、効率的な税の使い方は課題となると考える。予算に市長の思いは15%しか反映されていないようであるが、今年度予算については了としたい。

## 採決

賛成多数（反対：三上、馬場）

## 指摘要望事項

< 湊委員 >

子ども議会での意見を議長から市長に提言として提出し一定の予算措置がなされた。千代川小学校、大井小学校のトイレ改修については平成27年12月補正予算に計上されたが、根本的な解消には至っていない。近い将来に大規模改修を実施することとされているが、最低限の教室確保、トイレ改修等の施設環境は整えていくべきである。保育所でも水洗化がまだできていない所もあるようであり、これも含めて予算措置いただきたい。

< 木曾委員 >

新火葬場、公共施設等総合管理計画の策定、中学校給食については必ずやり遂げていただくために、平成28年度において方向性を出すように要望する。

< 藤本委員 >

公共施設等総合管理計画は亀岡市の実情に合った計画としていただきたい。

< 湊委員 >

指摘要望事項としては別に送付するのか。

< 事務局長 >

指摘要望の内容は委員長報告の中に盛り込むとともに、一覧表として議長名で市長あてに送付する。

## 議会だよりの記事に関する協議

< 藤本委員 >

市長が重点的に予算措置する内容を記載してはどうか。

< 木曾委員 >

バス交通関連経費の交通空白地域に関する内容を入れていただきたい。

< 齊藤委員長 >

委員長報告の文言及び議会だよりの記事内容は正副委員長に一任願う。

14 : 40

【閉議】



[副委員長 あいさつ]

[副議長 あいさつ]

<齊藤委員長>

予算審査を終了し、散会する。

14 : 43